連載・自衛隊の実態その③

中央即応集団とは？

――世界の紛争地を求める自衛隊――

「新防衛大綱」に明記された陸上自衛隊の中央即応集団という新部隊（防衛庁長官直属）が、〇六年度中に正式発足する。〇五年版防衛白書によると、「ゲリラや特殊部隊による攻撃などの各種の事態が発生した場合に事態の拡大防止を図るため、機動運用部隊（ヘリコプター団、空挺団など）や各種専門部隊（特殊作戦群、化学防護隊など）を一元的に管理し、事態発生時に各地に迅速に戦力を提供する」ことと、「国際平和協力活動に主体的・積極的に取り組んでいくため、陸自の部隊を迅速に派遣して継続的に活動できる」ことを目的としている。平たく言えば、中央即応集団とは、戦場に最初に投入される機動部隊で、長期の海外派兵にも対応できることを想定している。

現在明らかにされている編成部隊は、以下のようになっている。

司令部及び司令部付隊　発足は東京都練馬区の朝霞駐屯地になるが、やがて神奈川県のキャンプ座間に移転予定。キャンプ座間には、米陸軍第一軍団司令部が移転してくるといわれている。空軍の横田基地、海軍の横須賀と並ぶ日米三軍の司令部の一体化が、日米軍事同盟の緊密化を一層危険な方向に進化させる。

空挺団　千葉県習志野駐屯地にある落下傘部隊の第一空挺団だけでなく、空挺作戦が可能な全国の部隊を含めた機能別・総括的運用を想定していると思われる。

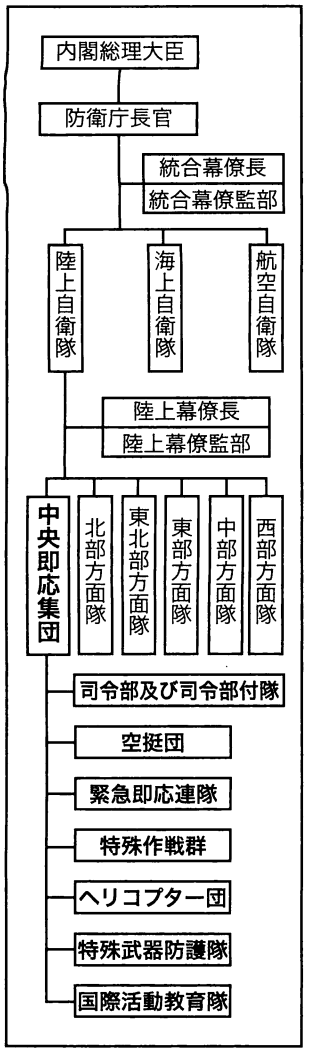
緊急即応連隊　栃木県宇都宮駐屯地で創隊してやがてキャンプ座間に近い米軍相模原補給廠の一部返還地へ移転するといわれる。中央即応集団の本隊ともいわれている。八〇〇～一〇〇〇人規模の普通科連隊を基幹部隊とし、増援兵力を常に他の師団や旅団に準備している。

特殊作戦群　〇四年、約三〇〇人で創隊したこと以外詳細は不明。米軍特殊部隊のデルタフォースとかグリーンベレーの陸自版といわれている。習志野駐屯地に配置されている。

ヘリコプター団　千葉県木更津の第一ヘリコプター団や群馬県相馬原駐屯地の第十二ヘリコプター隊を含めた機能別・総括的運用を想定している。

特殊武器防護隊　埼玉県大宮駐屯地の、一〇一化学防護隊を中心として、生物兵器への対処能力を強化した部隊として創隊される。

国際活動教育隊　静岡県御殿場の駒門駐屯地に創隊の予定。海外派兵が予定される部隊の教育訓練を行なう。

中央即応集団は、当初は約三二〇〇人規模で創隊される。陸自初の「司令官」と呼ばれる団長が陸将であることから、同集団は師団と同等で、やがては五〇〇〇～六〇〇〇人規模の部隊となり、将来陸自の中心的な部隊になるものと思われる。

自衛隊の「国際協力活動」とは、米軍と共同で行なう「世界の紛争地での安定化作戦」のことに他ならない。安定化作戦での非戦闘任務の多くは、既にイラクで経験済みである。あとは治安作戦などの戦闘行動が残るだけである。（T）